

令和2年度 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)

山形県立鶴岡工業高等学校(全日制)

教育目標	1 豊かな教養と工業に関する知識と技術を修め、創造性に富んだ人間の育成。	重点目標	1 主体的な学習の推進と確かな学力の定着 一知識基盤社会を生き抜く学力の育成一
	2 自ら深く考え正しく判断する力と他を思いやる心をもった感性豊かな人間の育成。		2 生徒指導の充実と心身の健康管理 一豊かな心と健やかな体の育成一
	3 健全な身体とねばり強い実践力を培い、心身共にたくましい人間の育成。		3 自己実現を図れるキャリア教育の推進 一変化に対応し、社会で自立できる力の育成一
			4 工業教育の充実と学校活力の創出 一学校と地域の協働による人づくり一
			5 地域に根ざした魅力ある学校づくり 一郷土に誇りを持ち、地域とつながる生徒の育成一

達成度	A : 達成	B : 概ね達成	C : やや不十分	D : 不十分
-----	--------	----------	-----------	---------

評価項目	自己評価(年間)			学校関係者評価		総括
	具体的方策と指導・基準等	目標達成状況及び取り組み状況	達成度	次年度に向けた改善策	意見・要望・評価等	
1 主体的な学習の推進と確かな学力の定着	(1)主体的に学びに向かう力の育成と確かな学力の定着を図る授業改善の推進 (2)主体的・対話的で深い学びを効果的に展開できる新教育課程の編成 (3)指導と評価の一体化を進める評価のあり方の研究と見直し (4)高度な資格取得に対応できる力を育成する指導の推進	(1)出席率99.5%の目標を概ね達成できた。 (2)家庭学習については目標(学年ごとに設定)を達成することは出来なかったが、昨年と比較して学習時間は増加している。 (3)授業満足度の目標80%を達成できた。 (4)欠点保有者を0人とすることはできなかった。 (5)年間図書貸出読書数2.4冊/人(昨年1.9冊) (6)職員を研修会に派遣し教科指導の充実を図った。	B	・生徒の要望に応える校内組織の在り方を引き続き検討しさらなる充実を図る。 ・学力向上策、キャリア教育推進、カリキュラム・マネジメント構築を検討する。 ・教科指導法についての研修をさらに充実させる必要がある。	・コロナ禍において着実に教育実践が展開され、生徒、保護者ともに先生方の指導について満足しており、生徒も真摯に取り組んだことがうかがえる。 ・家庭学習の充実に向けて、実態を把握し生徒のモチベーションを高めるなど、教員だけでなく生徒自身も一緒に検討しては。 ・教科を超えた指導体制の導入を早期に実現させてほしい。 ・読書習慣を身に付けさせてほしい。 評価B	・コロナ禍にあることを踏まえ、地域拠点校としての特色と魅力をさらに発信できるように努力していきます。  ・地域に根ざした元気な学校、郷土に誇りを持ち地域とつながる生徒の育成を心掛けて実践します。
2 生徒指導の充実と心身の健康管理	(1)特別な支援が必要な生徒に対する指導体制の構築 (2)他者の尊厳の尊重と社会人としての規範意識・マナーの確立 (3)円滑な人間関係を育む学校生活と交通安全・情報モラル教育の推進 (4)自己の健康・安全管理ができる生徒の育成	(1)いじめアンケートに迅速かつ適切に対応した。 (2)自転車事故が1件と減少した。(昨年6件) (3)部活動加入率は目標の90%以上を達成した。 (4)コロナ禍にありPTA総会は書面にて実施した。 (5)コロナ禍にあり学年PTA・学級PTAは例年より制限した回数、内容で実施した。 (6)コロナ禍にあり外部講師を活用した講話等は実施できなかったが、機器使用のルール徹底と情報モラルの啓発に向けた注意喚起を行った。 (7)生徒支援委員会が中心となり学年団部や当該学科等との情報交換やスクールカウンセラーの活用などにより生徒支援を充実させた。	B	・支援を必要とする生徒については、特別支援コーディネーターを中心に組織的な対応をさらに充実させる。 ・いじめは絶対許さない校風づくりと完全防止を徹底する。 ・交通安全や防犯、SNS活用、現状に応じた指導を適切に行う。	・コロナ禍においても安全と安心が保たれ、落ち着いて学校生活が送られていることがうかがえる。 ・特別な支援を要する生徒への支援が組織的にきめ細やかに行われている。今後とも対応を前進させてもらいたい。 ・学校生活について先生方はよく目を配り対応しているように感じる。 ・いじめへの対応では、少数の声を大切にしてもらいたい。 評価A	・確かな学力に基づいたキャリア教育の視点で探究心と向上心を持った生徒育成に取り組めます。  ・生徒一人ひとりに対応した支援に取り組めます。  ・家庭学習の習慣化をめざし継続して指導します。  ・主体的に行動できる力を身に付け、いじめの根絶や交通安全意識の向上に今後も取り組めます。
3 自己実現を図れるキャリア教育の推進	(1)将来の在り方・生き方を探究し、変化に対応できる実践的な工業技術者の育成 (2)コミュニケーション力や自己表現力などの社会で求められる人間力の育成 (3)グローバルな視野を持ち、地域の未来を考える人材を育成するキャリア教育の推進 (4)進学志望の実現を図る指導体制の確立	(1)企業就職希望123名中県内77名、県外46名、公務員希望11名中7名が内定した。 (2)地元就職率は60%の目標を達成した。 (3)進学指導体制が強化され、国公立大合格者の人数が増加した。 (4)3年間を見通した進路ガイダンスにより充実した進路指導を実施した。 (5)電気工事士22名、ITパスポート4名、測量士補1名、土木施工業者12名、建築施工技術者11名合格。	A	・総合型や学校推薦型の大学受験に向けて、2・3年生の進学希望者に対する指導体制の充実を図る。 ・地元就職に関する生徒への情報提供の充実を図る。	・感染症拡大の影響のなか一人ひとりの進路選択を実現していることが高く評価できる。 ・資格・検定受験などが積極的に行われていると思う。意義を生徒に自覚させ目標が達成されるよう努力願いたい。 ・「鶴工研究発表会」など生徒が楽しみながら学ぶ取組みは今後も充実させて欲しい。 ・コロナ禍における進路指導の環境整備の充実をお願いしたい。 評価A	・元気で豊かな心と健やかな体を育み、工業教育の充実と学校活力の創出に取り組めます。  ・各種大会で全国で優勝できる生徒を育成します。
4 工業教育の充実と学校活力の創出	(1)ものづくり活動を通じた主体性・創造性を備えた実践力のある工業技術者の育成 (2)地域、産業界、大学等と連携した工業教育の活性化と起業家精神(アントレプレナーシップ)の醸成 (3)地域への積極的な工業教育の魅力発信と各種コンテストなどでの活躍に向けた支援	(1)山形大学工学部と高大連携・接続協定により生徒の研究体験を実施できた。 (2)山形大学国際事業化研究センターと高大連携により本県の未来を担う起業家育成プログラムを実践した。 (3)地域に工業技術を生かす研究活動を積極的に行った。課題研究発表会では荘銀タクト鶴岡で開催した。ものづくり展示会は公開講座も実施し大好評を得た。	B	・生徒の多様なニーズに対応できるよう、高大連携や企業との連携をさらに強化し、地域の教育資産を活用した活動を継続実践する。	・地域課題と結び付けた学習・研究成果が生まれていることが評価できる。 ・生徒の満足度も高く、楽しい高校生活を過ごす生徒が多いと思われる。 ・コロナ禍の中で奮闘している。感染防止を図りながら活気ある学校づくりを願う。 ・全ての生徒が自身の成長を確認できるように資格の合格者が増えることを期待したい。 評価B	
5 地域に根ざした魅力ある学校づくり	(1)郷土に目を向け、地域課題の解決に取り組む生徒の育成 (2)全国の舞台上で活躍する部活動、ものづくり活動、研究活動などの育成と支援 (3)ホームページやバブリシティ等を活用した積極的な情報発信	(1)「鶴工シルクプロジェクト」の活動ではシルクチーフやシルククリームを製作販売し地域の歴史や特色に関係する取組みを行った。 (2)全国高校総体、県大会等が中止となり生徒の活躍を記録として残すことは出来なかった。 (3)コロナ感染症への対応で行事も中止するなどし、HPについては例年に比較して更新頻度が低い状況であった。	B	・運動部、文化部の活発な活動により、拠点校として維持・発展していく。 ・HPにおいて、各部のブログやプレスリリース等、最新の情報を発信できるように努める。	・「鶴工シルクプロジェクト」をはじめとする地域と連携・協働の推進により充実した地域貢献活動が評価できる。 ・地域とのコラボを進め、より多くの生徒が地域交流に参加する体制づくりを検討願います。 ・これまで地域に根差した技術高校として存在感を示してきた。 ・中学生、これから工業に入学しようとする生徒に夢を与えられる鶴工ブランド確立、PRに積極的に取り組んで欲しい。 評価A	

自己評価及び学校関係者評価の改善点等	・地域との連携をさらに強化し、工業高校の特徴であるものづくり教育をとおして地域人材の育成に結びつけられるよう、職員一丸となって取り組む。 ・学校の活動を地域の人にPRする手段(HP、SNS)を充実させるとともに、コロナ禍のなか情報の発信を丁寧にきめ細やかに行う。
--------------------	--